

店舗一覧

明石市中央部	本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
加東市上滝野	支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
	支店		
神戸市東部	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市北部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

2025年9月
仮決算から



水彩画：須飼 秀和

We will make a fresh step everyday.



日新信用金庫



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489
(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

環境に配慮した植物油インキを使用しています。

日新信用金庫
The Nisshin shinkin bank

2025年度の出来事

4月

- 4月 1日 入庫式(総合職25名、一般職5名)
- 4月 1日 神戸新聞朝刊に「50周年記念広告」が掲載されました。
- 4月23日 第65期リフレッシュサロン(全6回)を開催しました。(以後5月14日、6月11日、7月16日、8月27日、9月3日)
- 4月25日 特殊詐欺被害防止および交通安全運動の啓発活動が評価され、明石警察署から感謝状をいただきました。



(入庫式:2025年4月)

5月

- 5月12日 スーパー定期「タコちゃん定期」の取扱いを開始しました。(2025年6月30日まで)
- 5月14日 50周年記念事業の一環として、神戸市の「こども食堂」へお米を寄贈しました。(以後5月20日に三木市の「こども食堂」、5月30日に明石市の「こども食堂」にお米を寄贈しました)
- 5月19日 給与受取・クレジットカードの口座振替実績があるお客さまを対象に、利率を優遇した「給振力定期積金」の取扱いを開始しました。(2025年9月30日まで)



(感謝状贈呈式:2025年4月)

6月

- 6月12日 信用金庫の日(献血の実施)
- 6月13日 信用金庫の日(清掃の実施)
- 6月17日 第50期通常総代会を開催しました。(シーサイドホテル舞子ビラ神戸にて)
- 6月20日 信用金庫の日(特殊詐欺被害防止・交通安全の啓発活動の実施)
- 6月20日 「にっしん経営塾」(全9回)を開催しました。



(信用金庫の日:2025年6月)

7月

- 7月 1日 一部の営業店の営業時間を変更(昼休みの導入)しました。
*二見・平野・六甲・宝殿・板宿・魚住・市場支店
- 7月 1日 懸賞付き定期預金「タコちゃん・ドリーム」の取扱いを開始しました。(2025年12月30日まで)
*一等10万円
- 7月 4日 役職員が安全運転に努めた結果、自動車安全運転センターから「優秀安全運転事業所」として表彰されました。



(第50期通常総代会:2025年6月)

8月

- 8月 1日 アンパンマン通帳・キャッシュカードの取扱いを開始しました。
- 8月27日 加古川支店感謝デーを実施しました。(8月27日、28日)



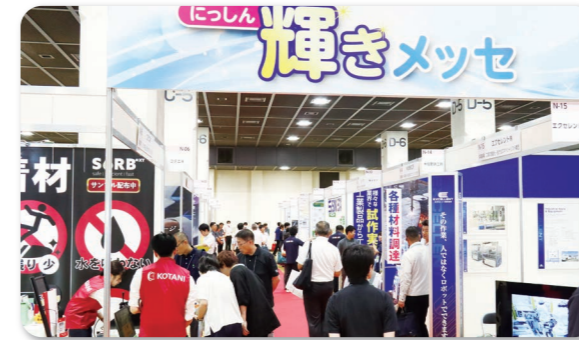
(加古川支店感謝デー:2025年8月)

9月

- 9月 4日 「にっしん輝きメッセ2025」を開催しました。(9月4日、5日)
- 9月11日 小野支店開店70周年を記念して、感謝デーを実施しました。(9月11日、12日)
- 9月11日 特殊詐欺を未然に防止したとして、二見支店が明石警察署より感謝状をいただきました。

イベントの開催

『にっしん輝きメッセ』



「にっしん輝きメッセ2025」を開催し、お客さまの販路拡大・商品PRの機会をご提供しました。数多くの商談が実現しました。(神戸国際展示場:2025年9月)

『ヴィッセル神戸サッカークリニック』



ヴィッセル神戸のスクールコーチの指導による「ヴィッセル神戸サッカークリニック」を開催しました。子どもたちも元気いっぱい走り回っていました。(三木総合防災公園:2025年4月)

こども食堂へお米を寄贈



50周年記念事業の一環として、神戸市・三木市・明石市の「こども食堂」にお米を寄贈しました。〈にっしん〉は今後もお米の寄贈を継続していきます。(神戸市寄贈式:2025年5月)

周年感謝デーの開催



小野支店は地域の皆さまに支えられ、開店70周年を迎えました。日頃のご愛顧に感謝して9月11日・12日の2日間、感謝デーを開催しました。多数のご来店ありがとうございました。(小野支店:2025年9月)

新たな商品の発売

- 懸賞付き定期預金「タコちゃん・ドリーム」
- 「給振力定期積金」



アンパンマン通帳・キャッシュカードの取扱い開始

2025年8月より、アンパンマンとその仲間たちがデザインされた通帳およびキャッシュカードの取扱いを開始しました。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

特殊詐欺被害防止への取り組み

〈にっしん〉では、近年増加している特殊詐欺被害の未然防止に積極的に取り組んでいます。鈴蘭台支店では、地元警察署と連携し、啓発活動を実施しました。また、特殊詐欺被害を未然に防止したとして二見支店が、また啓発活動が評価され魚崎支店がそれぞれ警察署から感謝状をいただきました。



(明石駅前での啓発活動:2025年6月)



(鈴蘭台支店:2025年6月)

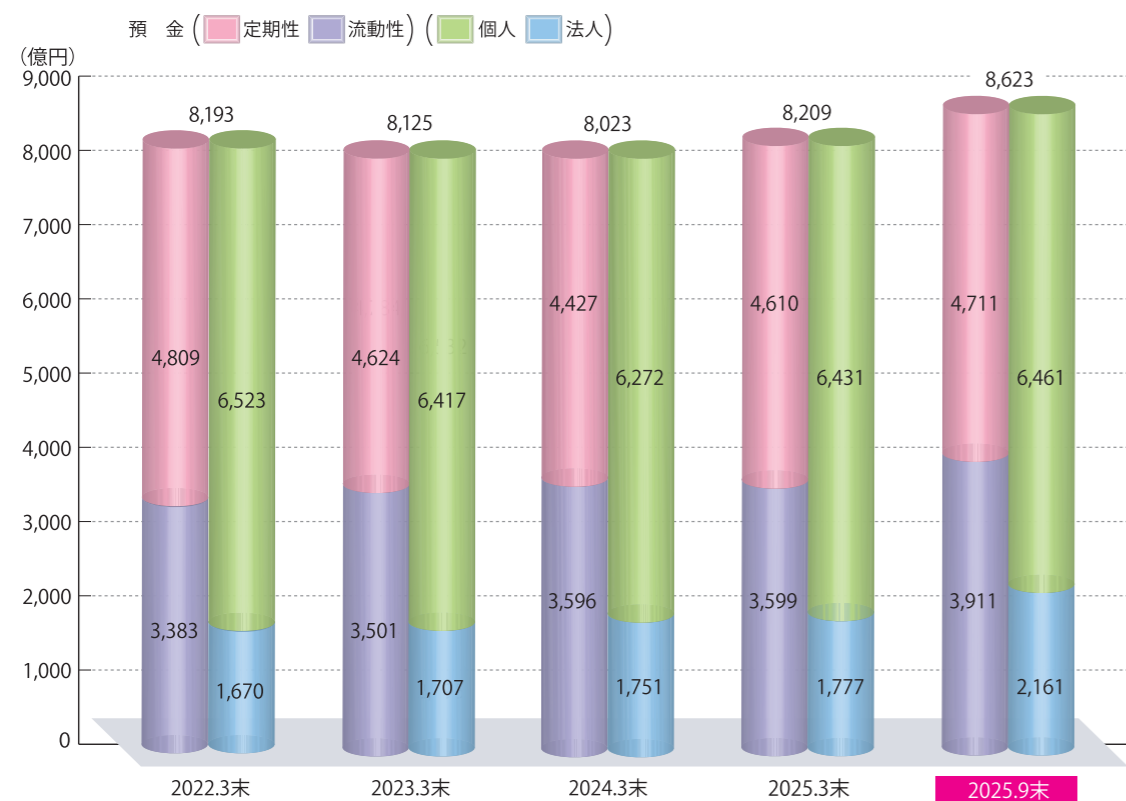


(魚崎支店:2025年7月)



(二見支店:2025年9月)

預金



● 預金

預金は、2025年3月末に比べて414億円増加し8,623億円となりました。地方公共団体等の預金は期中に預入され毎年3月末に引き出されるため、実質の増加額は117億円となります。

定期性預金、流動性預金ともに大幅な増加となりました。これは、キャンペーン定期預金や年金の受け取りを当庫に指定いただいているお客さま向けの定期預金を取扱いしたことや、法人のお客さまとの取引深耕が図れたことが主な要因です。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

● 貸出金

貸出金は、2025年3月末に比べて3億円増加し4,054億円となりました。これは、地域のお客さまとの対話を重視し、営業エリア内での高密度営業活動を実践したことや、地方公共団体への貸出金が増加したことが主な要因です。

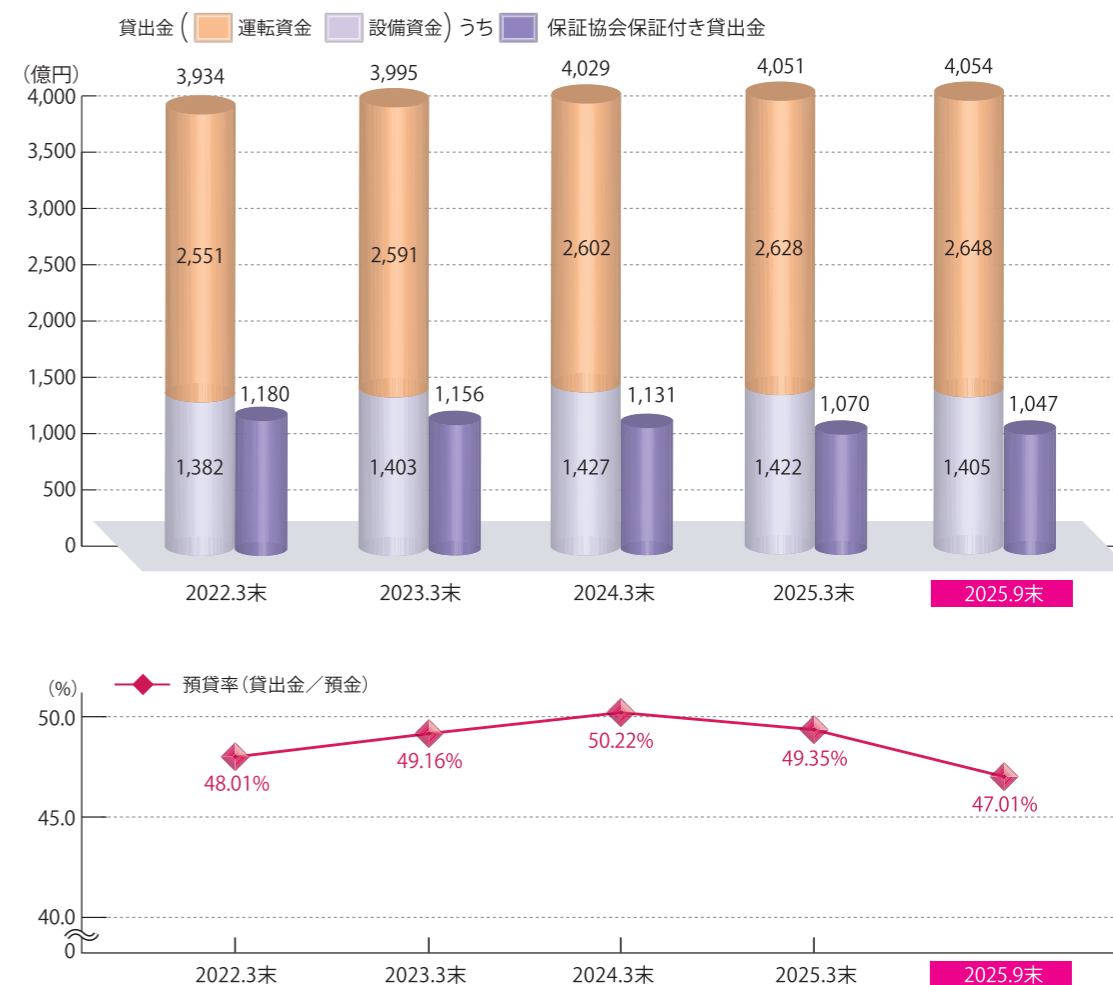
貸出金の増加以上に預金が増加したことにより、預貸率は2.34ポイント減少しました。

今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

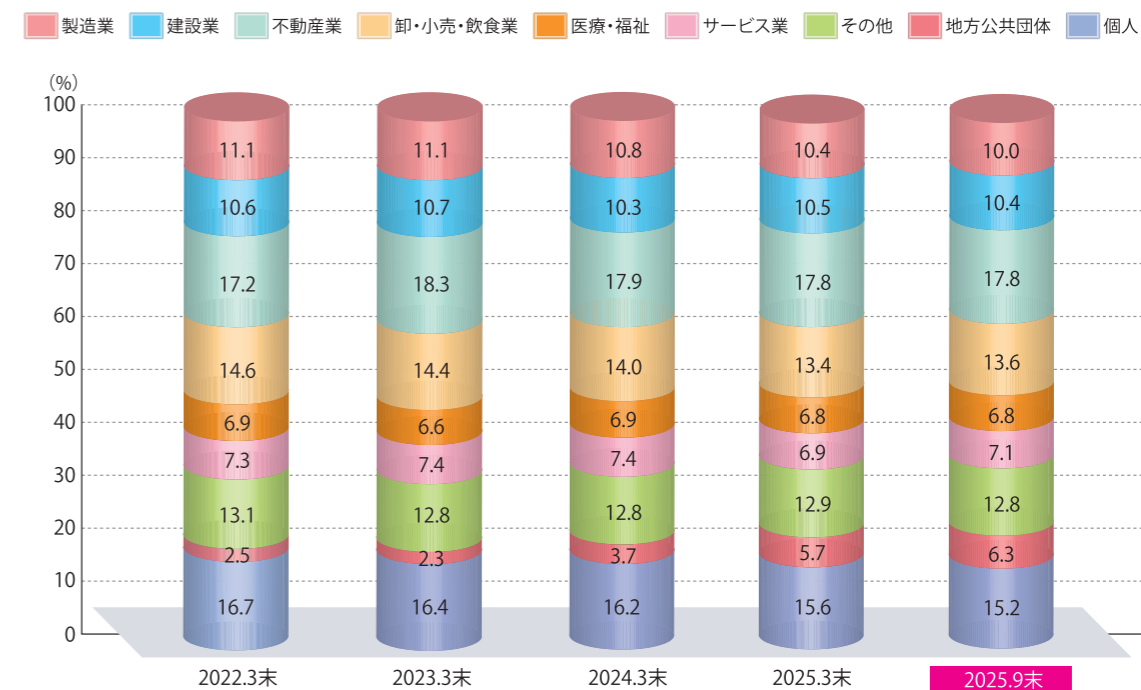
● 業種別構成比

貸出金の業種別構成比の推移をみると、2025年3月末に比べて、卸・小売・飲食業、サービス業および地方公共団体で増加しました。一方で、製造業、建設業、個人およびその他で減少しました。

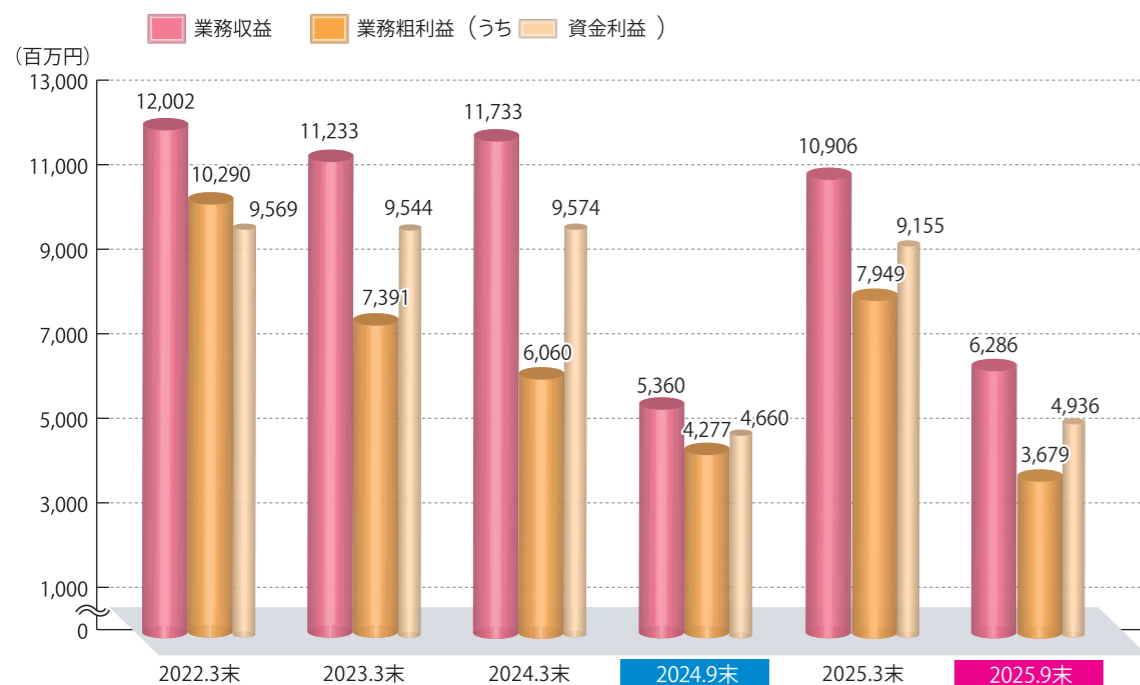
貸出金と預貸率



貸出金の業種別構成比の推移



業務収益、業務粗利益(うち資金利益)

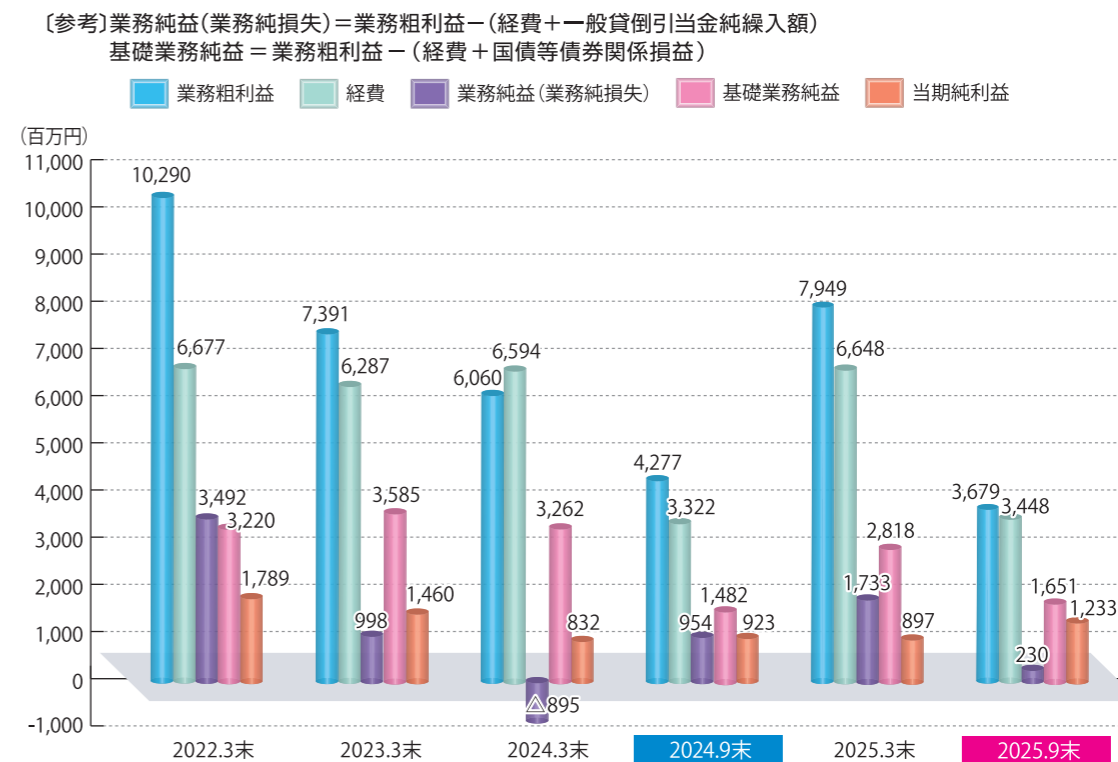


業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、一般企業の売上に当たります。債券売却益などのその他業務収益が74百万円減少したものの、貸出金利息収入が469百万円増加し、預け金利息収入が316百万円増加したことから、2024年9月末に比べて926百万円の増収になりました。

業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益が増収となったものの、預金利息が550百万円増加し、債券売却損が770百万円増加したことから、2024年9月末に比べて597百万円の減益となりました。

金庫の中核的業務から得られる資金利益(貸出金、有価証券、預け金の運用から発生する利益-預金利息)は、預金利息が増加したものの、貸出金利息収入や預け金利息収入が増加したことから、2024年9月末に比べて275百万円の増益となりました。

業務粗利益、経費、業務純益(業務純損失)、基礎業務純益、当期純利益



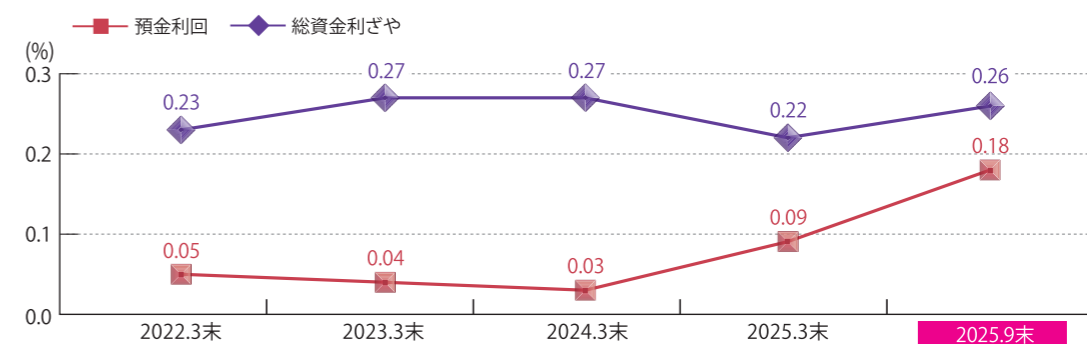
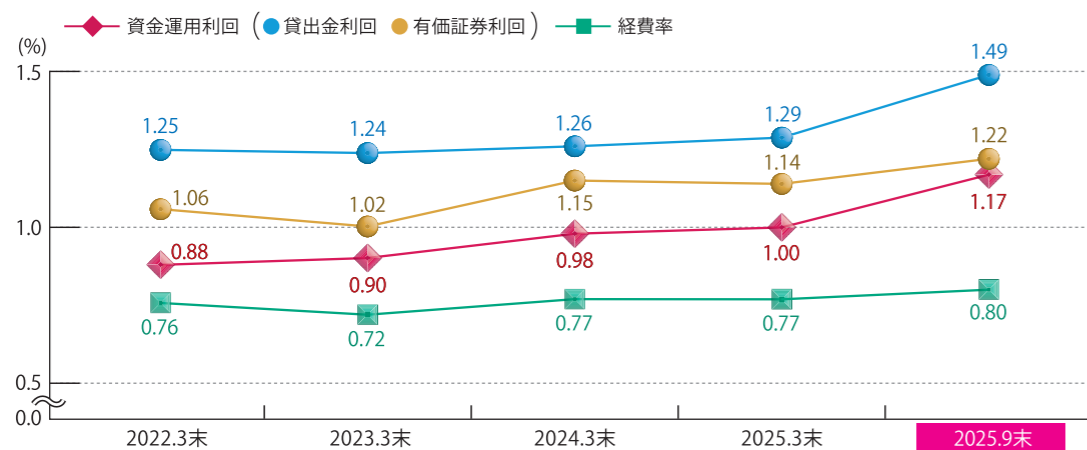
経費は、電子契約システムなど各種システム導入や保守料の増額により物件費が74百万円増加し、初任給、諸手当および賞与の増額などにより人件費が39百万円増加したため、2024年9月末に比べて126百万円増加しました。

業務純益は、経費の増加や業務粗利益の減益により、2024年9月末に比べて724百万円減益の230百万円となりました。

また、債券売却損益などを除いた本業での収益力を示す基礎業務純益は、1,651百万円と2024年9月末に比べて168百万円増益となりました。

当期純利益は、業務純益が減益となったものの、貸倒引当金の戻入があったことや株式等売却益の増加により2024年9月末に比べて310百万円増益の1,233百万円となりました。

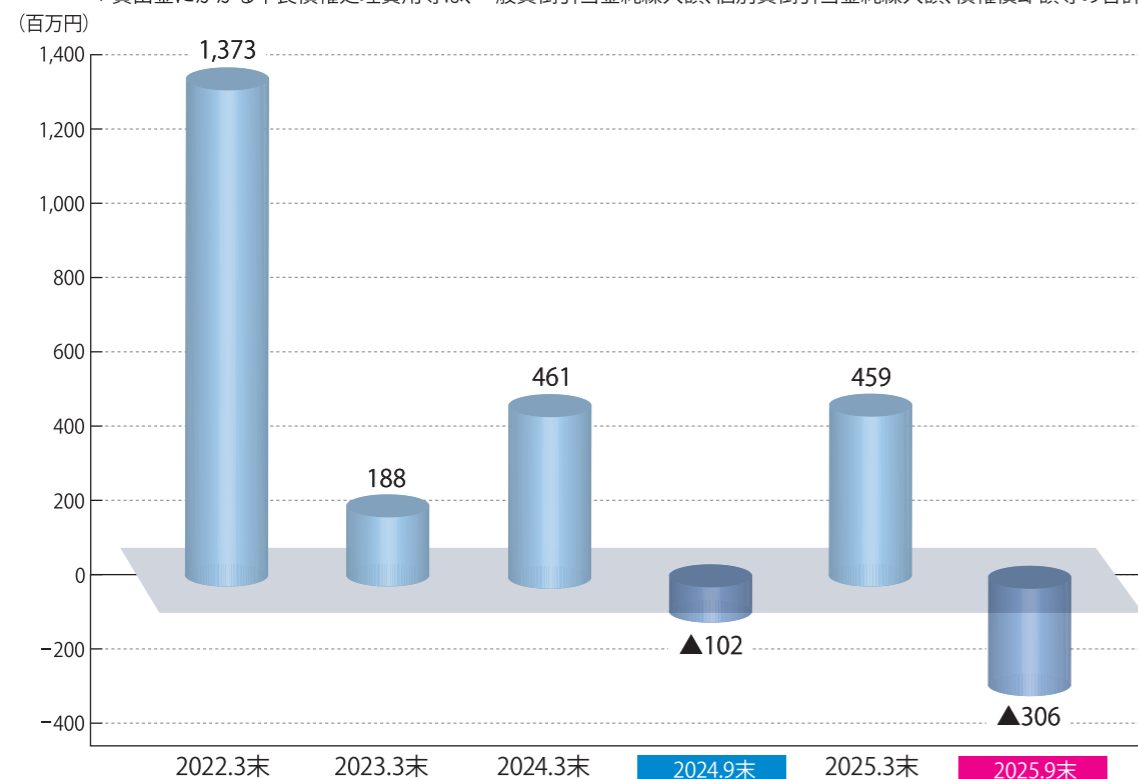
資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや



資金運用利回は、貸出金利回が上昇したことなどから、1.17%に良化しました。総資金利ざやは、経費率および預金利回が上昇したものの、資金運用利回が良化したことから、0.26%になりました。これからも収益力の強化に努めてまいります。

貸出金にかかる不良債権処理費用等*

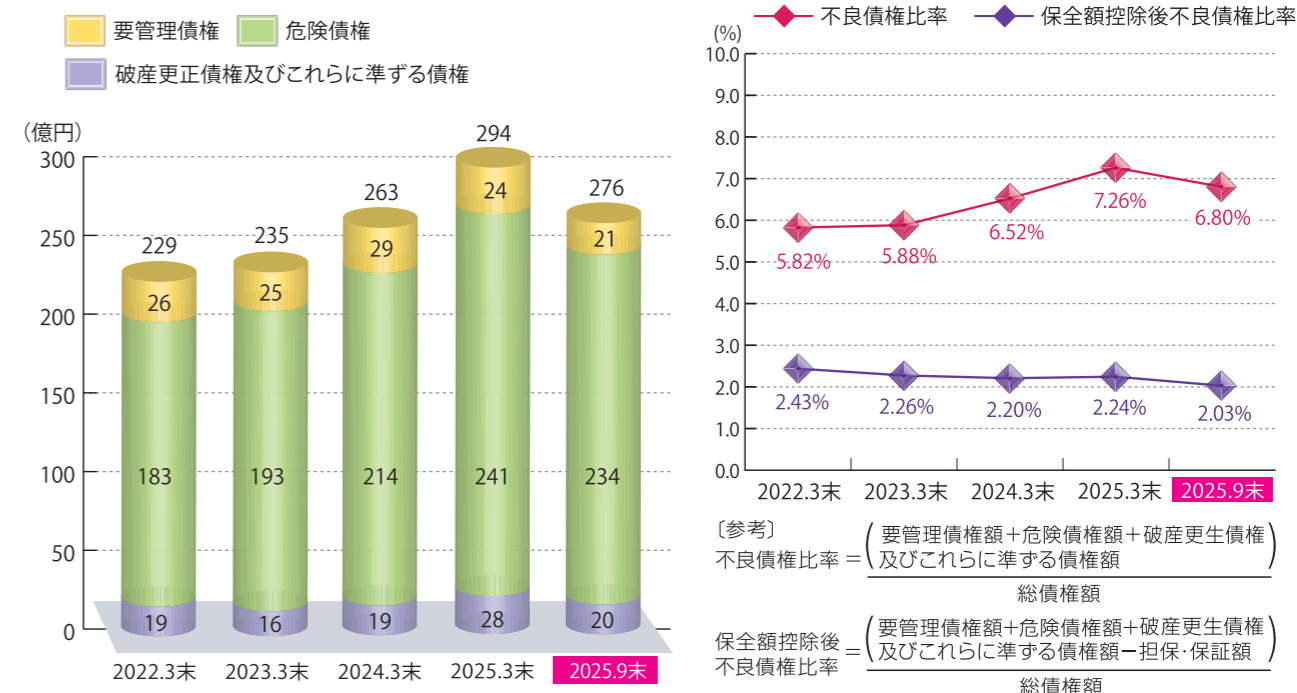
*貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



2025年9月末の不良債権処理費用は306百万円の戻入となりました。大口融資先の倒産等がなかったこと、不良債権処理を進めた結果、ロス見込額を上回る回収があったことが要因です。

今後もお客様の課題についてきめ細やかな支援を全力で取組むと共に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率



不良債権は、要管理債権、危険債権、および破産更生等債権に分類されます。不良債権残高は2025年3月末に比べて18億円減少して276億円となりました。不良債権比率は2025年3月末に比べて0.45%ポイント低下して6.80%となりました。担保・保証を差し引いた保全額控除後の不良債権比率は2.03%となっています。不良債権処理を進めたことおよび債務者区分のランクアップにより正常債権が増加したことが要因です。

今後も事業性評価により経営課題などを把握したうえで、お客さまと一体となり、外部専門機関などを活用しながら経営改善、事業再生支援活動に取り組んでまいります。

また、不良債権の発生原因についても十分に分析、研究し、審査能力の向上に努め、不良債権の発生防止を図ってまいります。

不良債権(要管理債権を除く)の保全状況

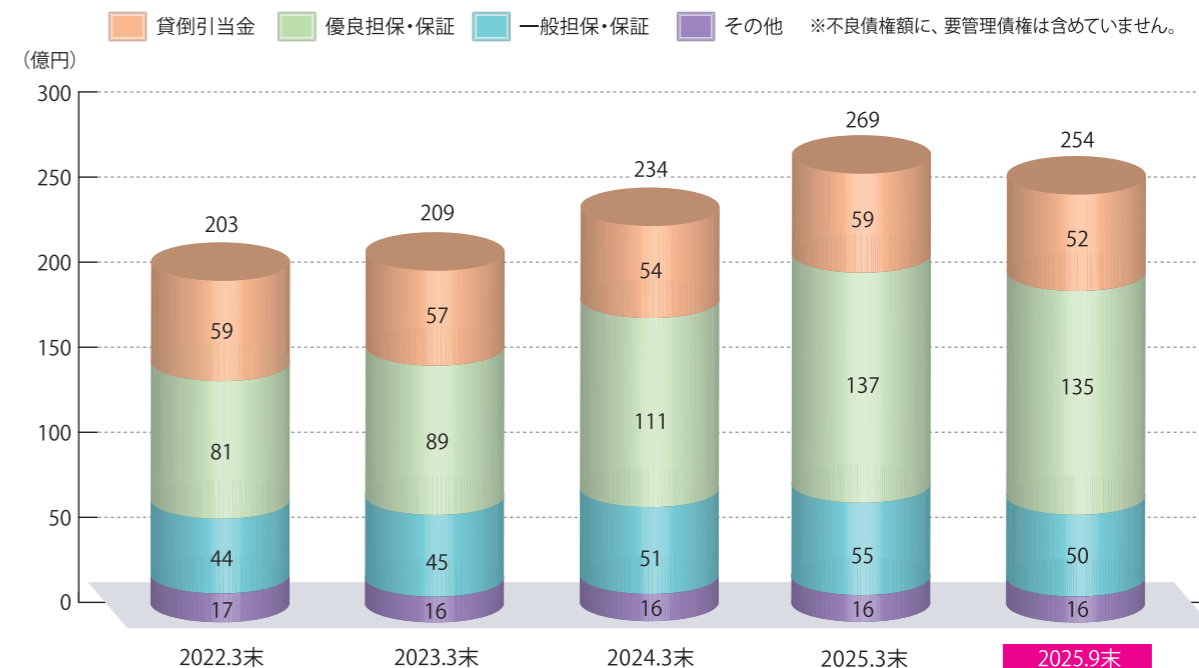
不良債権(要管理債権を除く)254億円の保全状況です。

貸倒引当金は52億円を計上しています。これは会計上損失処理済となります。

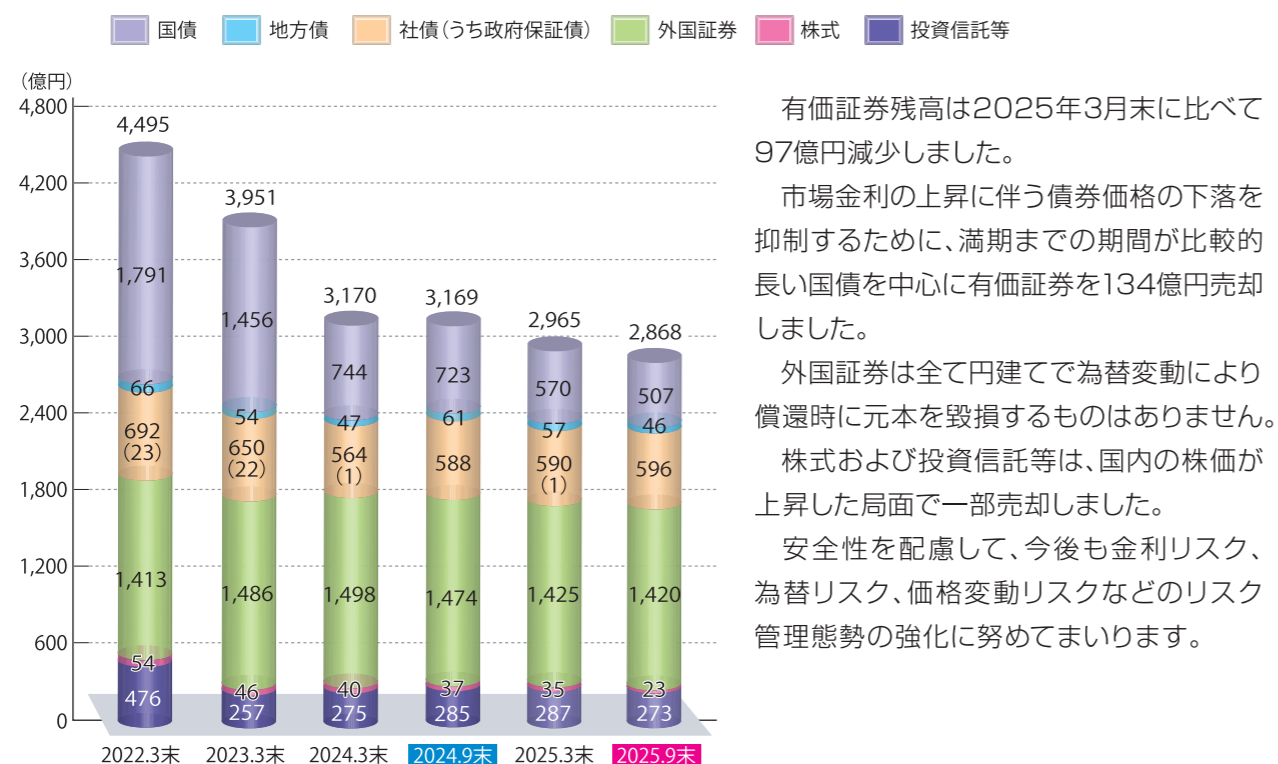
優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている135億円と一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている額50億円を合わせた185億円は回収が確実であると見込んでいる額です。

残りの16億円は、これまでの回収実績から見て回収可能と見込まれる額です。

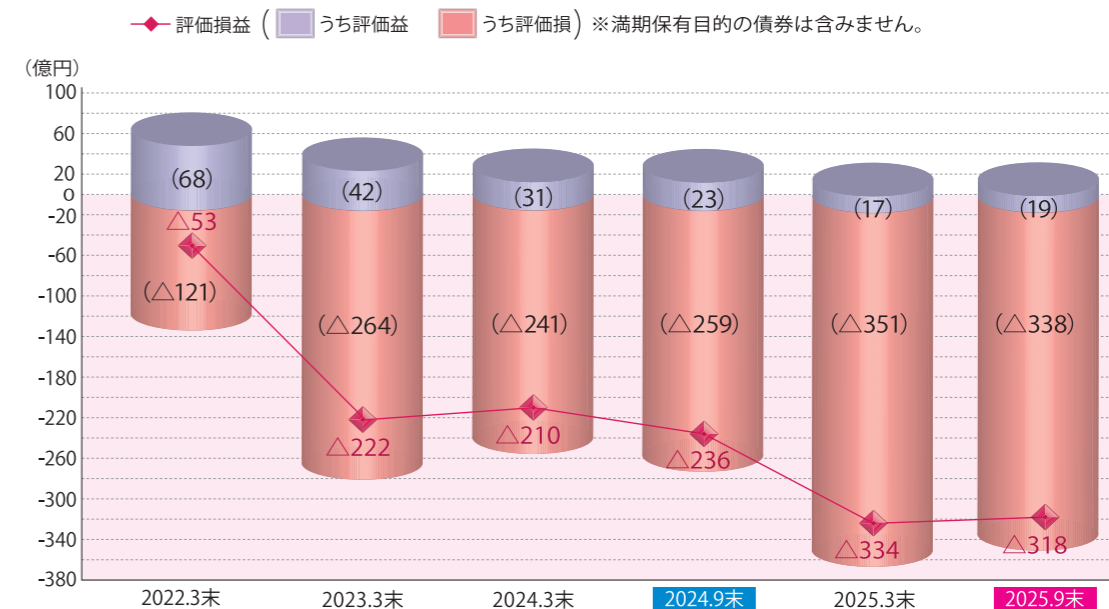
不良債権に対する保全率は93.65%となっています。



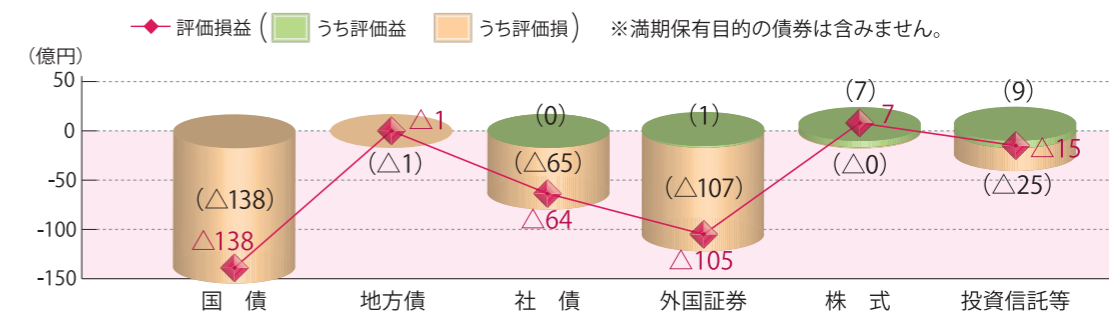
有価証券の種類別保有状況



有価証券の評価損益の推移



有価証券の種類別の評価損益 (2025年9月30日現在)



有価証券の評価益は19億円、評価損は338億円、有価証券全体で差引318億円の評価損となっています。

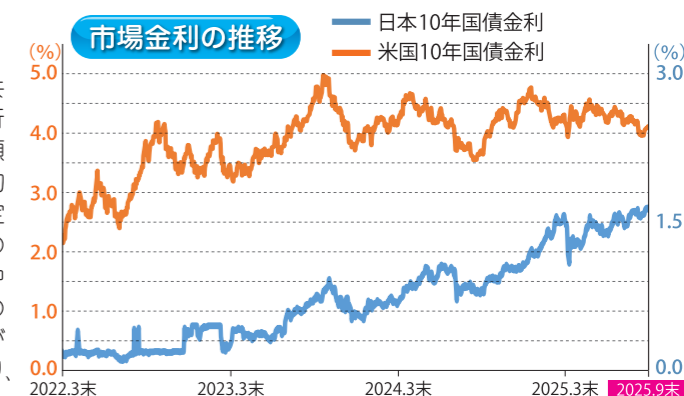
保有する有価証券の圧縮を進めた結果、評価損益は2025年3月末に比べて15億円改善しました。また、金利上昇への耐性は保有残高の圧縮や満期償還までの期間の短縮化により改善し、日本銀行の利上げを想定しても有価証券の評価損益が金庫経営に与える影響は限定的となっています。

有価証券のうち債券の評価損は282億円で約8割を占めています。債券は投資先の倒産等がなければ額面全額が償還されるので原則として保有を継続する予定です。

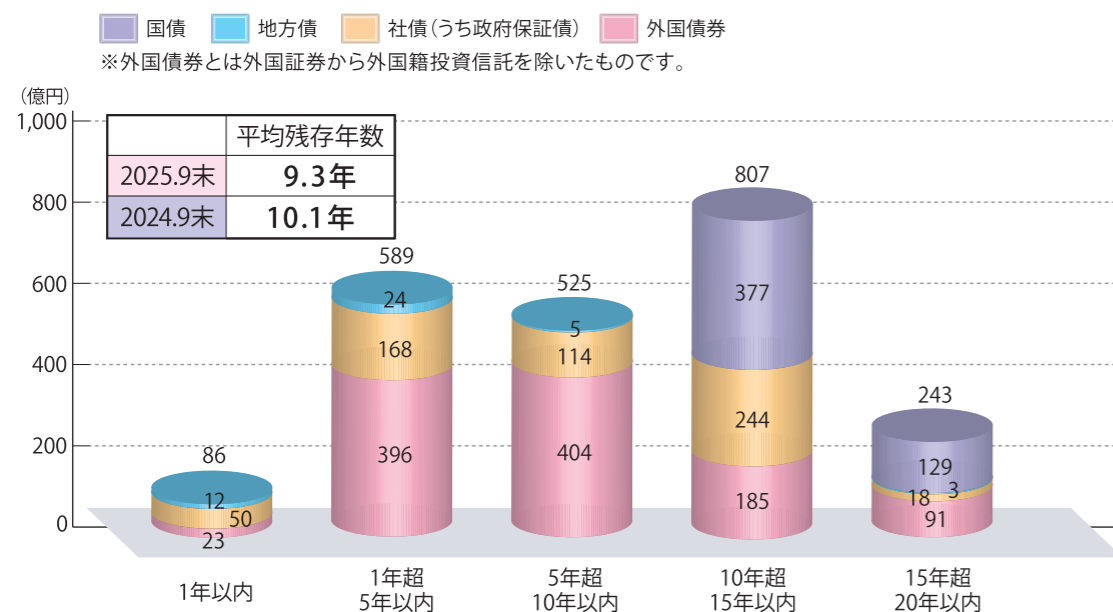
債券とは

債券は、資金を必要とする国や地方公共団体、会社などが資金を調達するために発行されます。一般的に満期償還時に額面全額が償還されることが約束されており、定期的に利息収入が得られることから比較的安定的な運用が可能です。債券の価格は市場の状況により日々変動しますので、保有期間中は債券に評価損や評価益が生じます。債券の評価損や評価益は、満期償還までの期間が短くなるにつれて次第に変動幅が小さくなり、満期償還時にはなくなります。

市場金利の推移



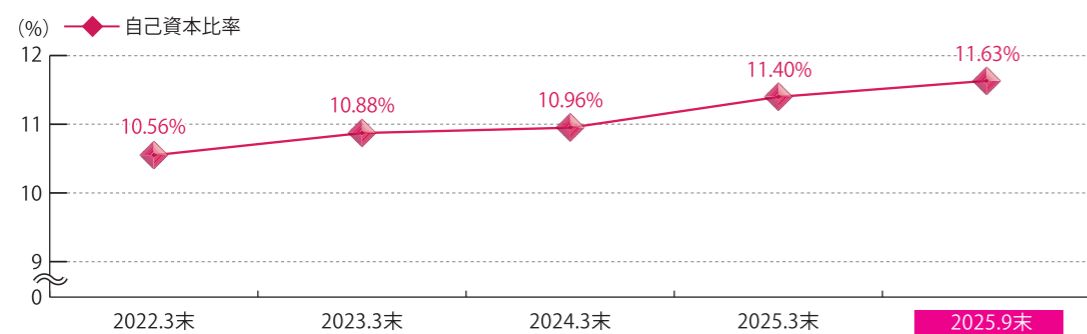
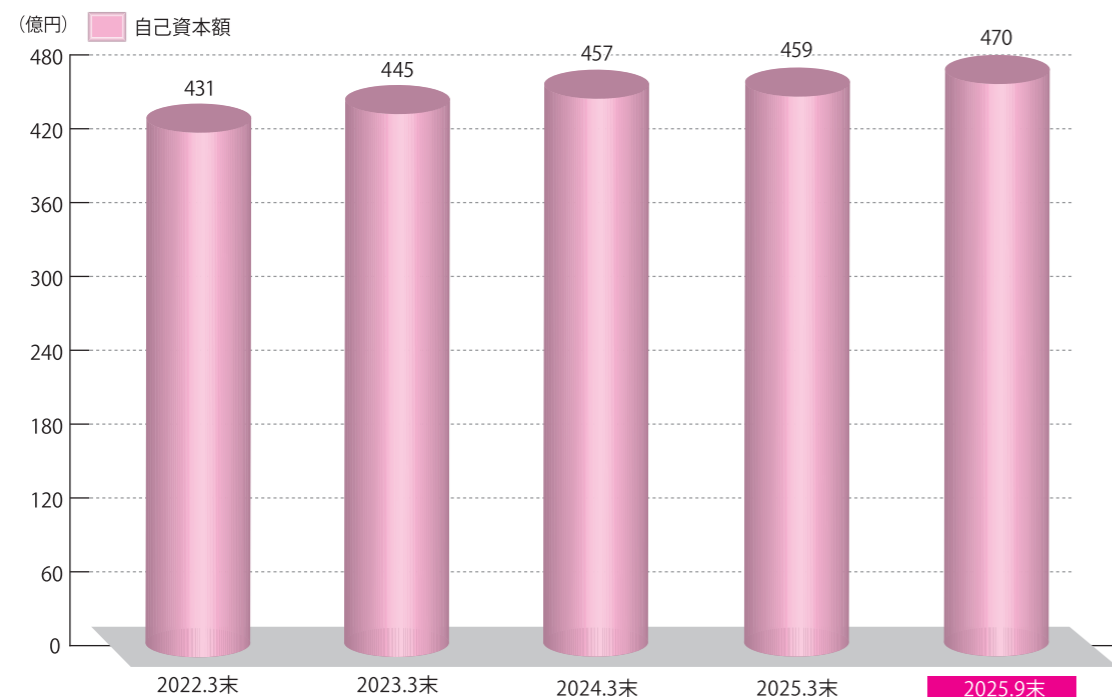
債券〔償還までの期間別に見た残高〕(2025年9月30日現在)



有価証券のうち株式および投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。国内債券の一部売却により期間10年超の残高圧縮を進めた結果、平均残存年数は2024年9月末に比べて0.8年短縮しました。

新たな投資は期間10年以内とし、期間20年超の債券の残高はありません。

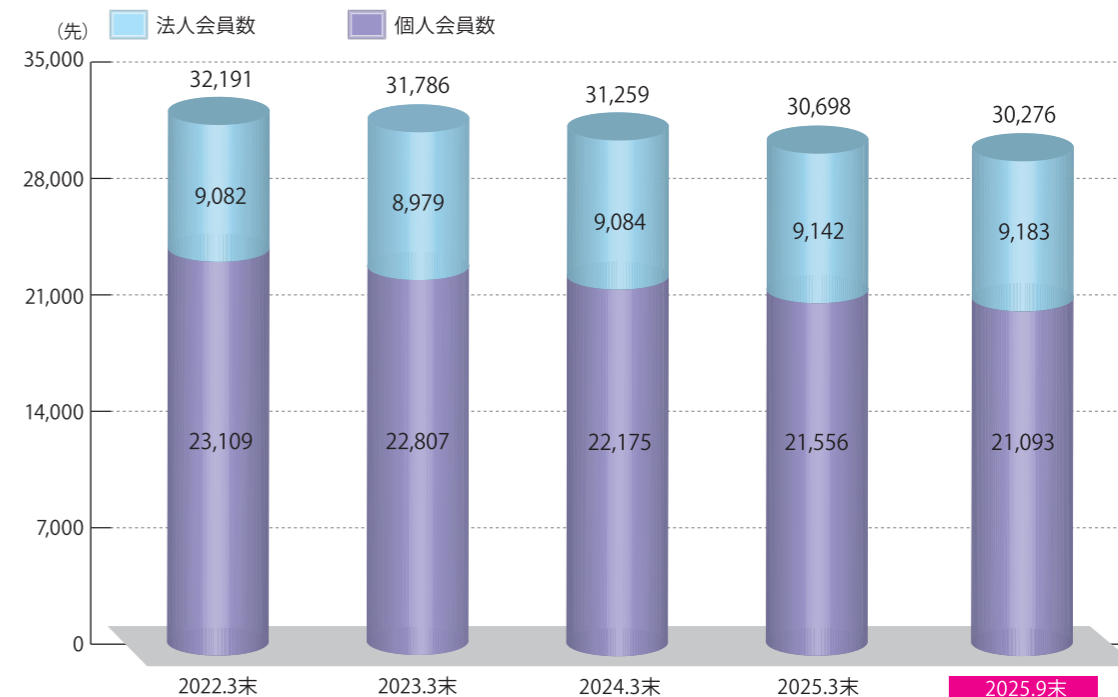
自己資本額と自己資本比率(信用金庫単体)



	2022.3末	2023.3末	2024.3末	2025.3末	2025.9末
リスクアセット (億円)	4,082	4,098	4,170	4,027	4,041

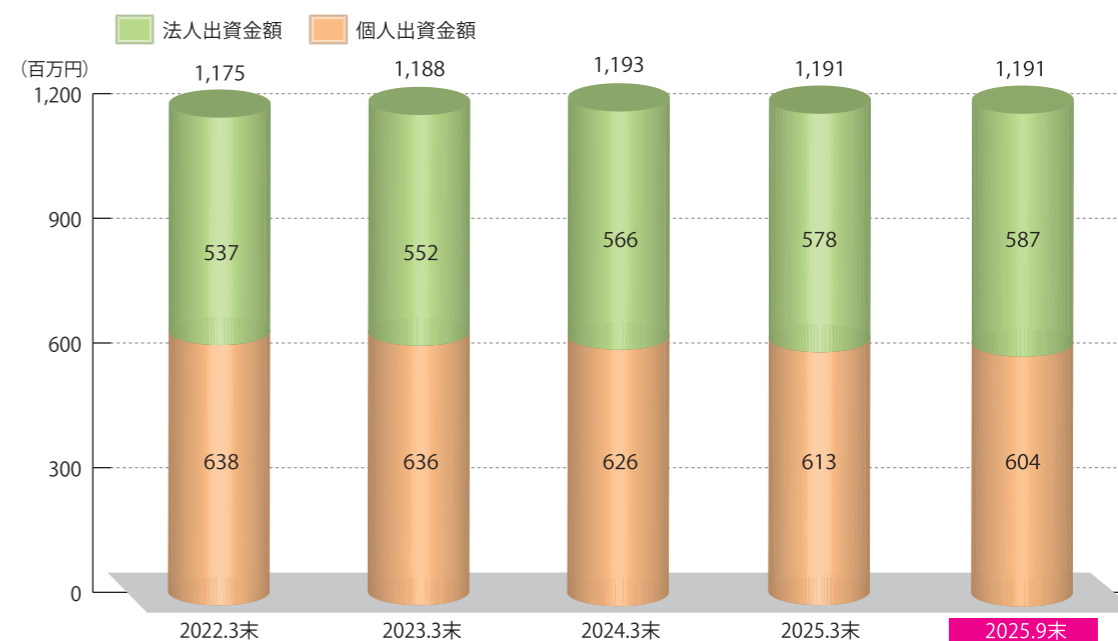
自己資本比率は2025年3月末に比べて0.23%ポイント上昇の11.63%となりました。これは社債など法人等向けのリスクアセットの増加により、リスク・アセットが14億円増加したものの、自己資本額が10億円増加したことによるものです。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持しています。これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

会員数



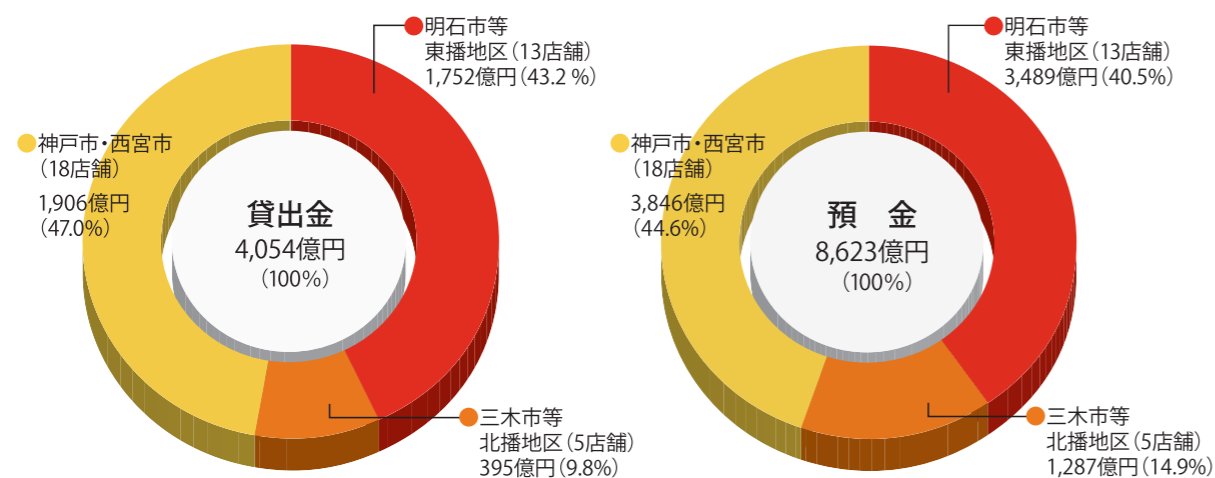
法人会員数は2025年3月末に比べて41先増加したものの、個人会員数は所在不明会員の除名および死亡等による法定脱退が多く463先減少し、全体の会員数は422先減少しました。

出資金額

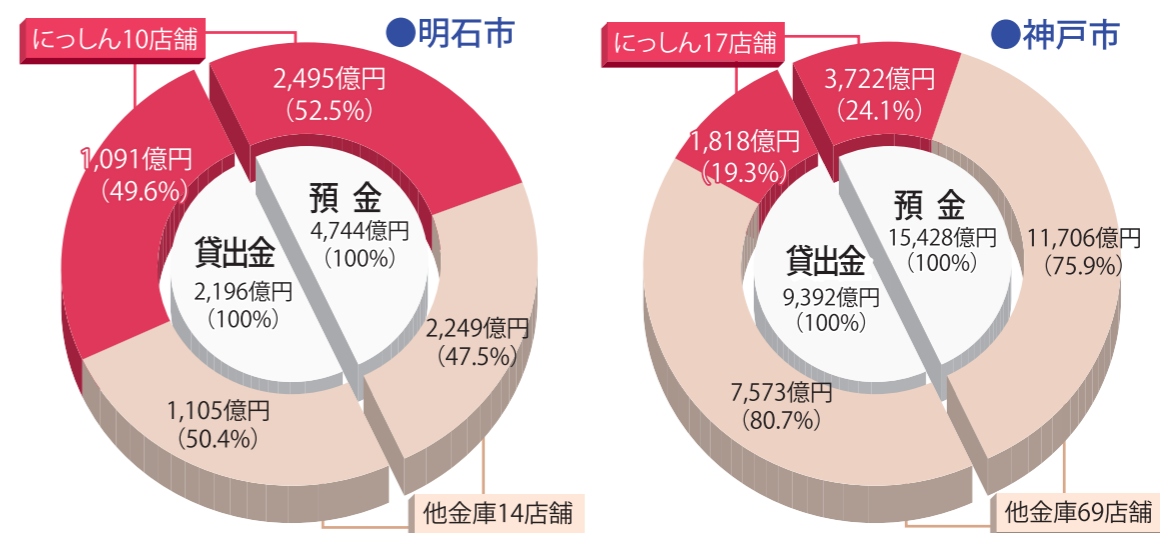


会員数は減少したものの、増口申込が増加したことから、2025年3月末に比べて11万円の減少に留まりました。

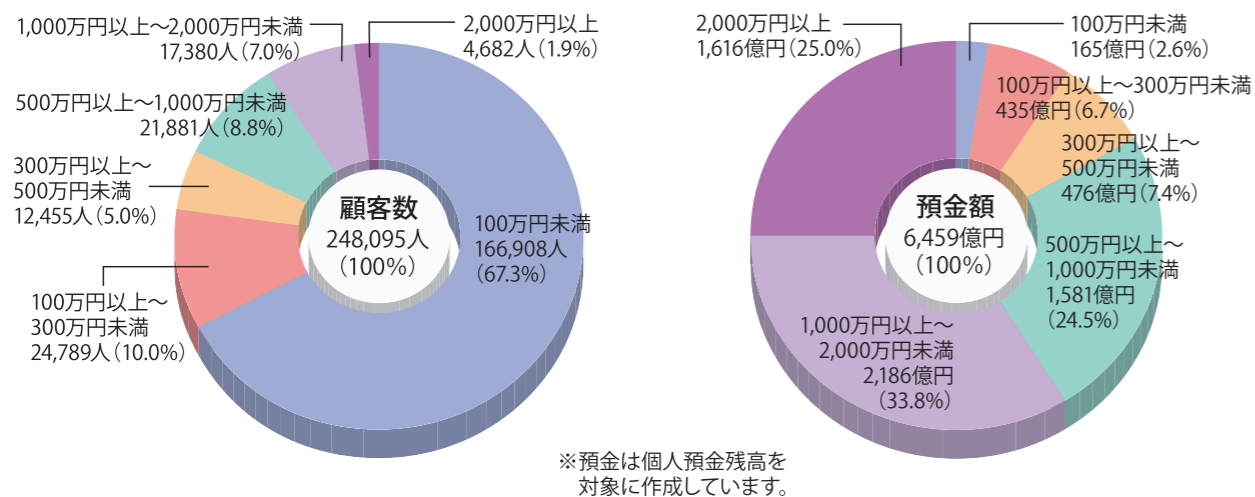
貸出金・預金の地域別構成 (2025年9月30日現在)



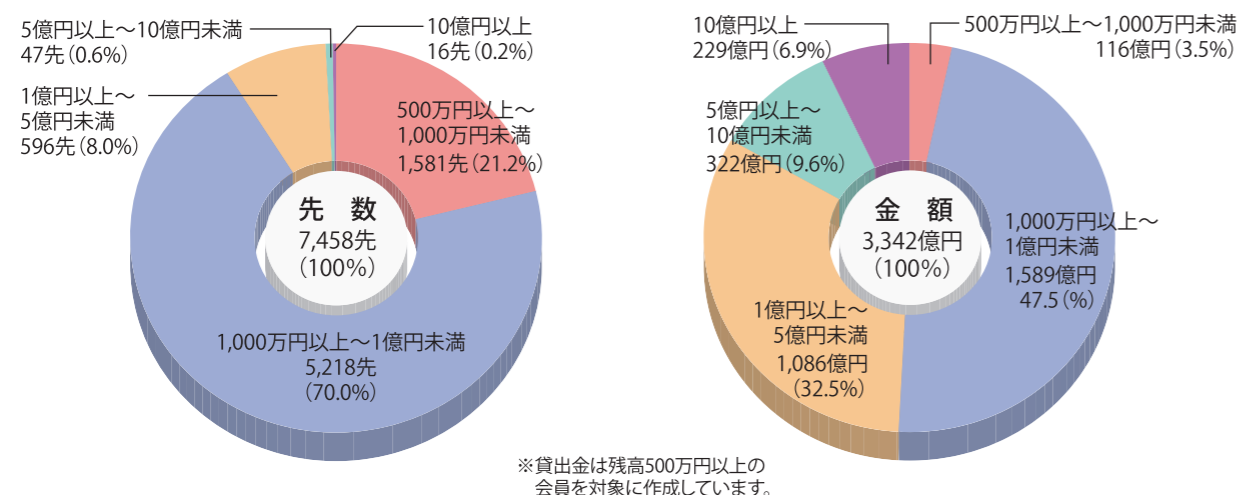
信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア (2025年3月31日現在)



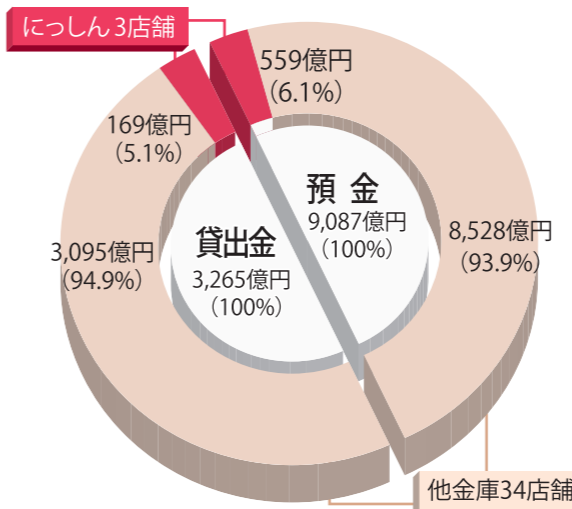
預金者のプロフィール 〈個人預金の残高階層別に見た顧客数と預金額〉 (2025年9月30日現在)



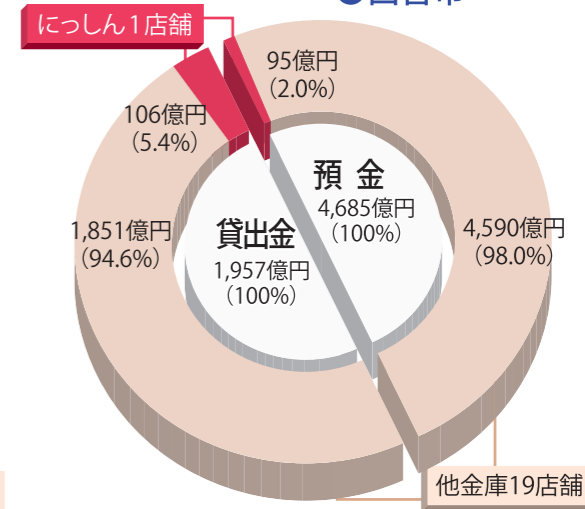
貸出先のプロフィール 〈貸出金の残高階層別に見た先数と金額〉 (2025年9月30日現在)



加古川市・高砂市・播磨町



西宮市



1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	2024年9月末	2025年9月末	増 減
現金・預け金	257,383	262,965	5,581
コールローン	10,000	15,000	5,000
有価証券	316,969	286,810	△ 30,158
貸出金	408,152	405,470	△ 2,682
事業性貸出金	325,377	318,252	△ 7,125
貸倒引当金	△ 6,900	△ 6,359	541
うち個別貸倒引当金	△ 5,391	△ 5,292	98
資産の部合計	1,001,470	980,401	△ 21,069

(単位:百万円)

負債および純資産の部	2024年9月末	2025年9月末	増 減
預金・積金	865,214	862,384	△ 2,829
個人預金	643,464	646,195	2,731
借入金	107,900	95,900	△ 12,000
負債の部合計	977,522	963,166	△ 14,356
出資金	1,188	1,191	3
利益剰余金	44,352	45,502	1,149
その他有価証券評価差額金	△ 21,592	△ 29,458	△ 7,865
純資産の部合計	23,948	17,235	△ 6,713
負債および純資産の部	1,001,470	980,401	△ 21,069

※ 借入金の資金調達先はすべて日本銀行であり、貸出増加支援資金供給などの資金供給制度を利用したものです。

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項 目	2024年9月末 (2024年4月1日~9月30日)	2025年9月末 (2025年4月1日~9月30日)	増 減
業務粗利益……………②	4,277	3,679	△ 597
うち資金利益	4,660	4,936	275
うち役員取引等利益	129	151	21
うちその他業務利益	△ 512	△ 1,408	△ 895
一般貸倒引当金繰入額③	—	—	—
経費……………④	3,322	3,448	126
業務純益……………①	954	230	△ 724
実質業務純益……………⑤	954	230	△ 724
臨時損益……………⑦	420	1,216	796
うち個別貸倒引当金繰入額	—	—	—
うち株式関係損益	380	887	507
経常利益……………⑥	1,375	1,447	72
特別損益	0	0	△ 0
税引前当期純利益……………⑨	1,375	1,448	72
当期純利益……………⑧	923	1,233	310

■ 主な項目の計算方法

①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費

⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額

⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益

⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(残高単位:百万円)

内 訳	2024年9月末		2025年9月末		残 高 増 減
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	43,591	10.7%	40,378	10.0%	△ 3,213
農業・林業	51	0.0%	45	0.0%	△ 6
漁業	1	0.0%	1	0.0%	2
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—
建設業	42,687	10.5%	42,359	10.4%	△ 328
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,214	0.3%	1,156	0.3%	△ 58
運輸業・郵便業	14,922	3.7%	14,828	3.7%	△ 94
卸売業・小売業	48,940	12.0%	47,785	11.8%	△ 1,155
金融業・保険業	36,020	8.8%	35,982	8.9%	△ 38
不動産業	72,376	17.7%	72,069	17.8%	△ 307
物品賃貸業	1,849	0.5%	1,700	0.4%	△ 149
学術研究・専門・技術サービス業	2,879	0.7%	2,858	0.7%	△ 21
宿泊業	3,403	0.8%	3,107	0.8%	△ 296
飲食業	7,849	1.9%	7,339	1.8%	△ 510
生活関連サービス業・娯楽業	4,518	1.1%	4,463	1.1%	△ 55
教育・学習支援業	623	0.2%	639	0.2%	16
医療・福祉	27,795	6.8%	27,684	6.8%	△ 111
その他のサービス	16,651	4.1%	15,851	3.9%	△ 800
小 計	325,377	79.8%	318,252	78.5%	△ 7,125
地方公共団体	18,547	4.5%	25,477	6.3%	6,930
個人(住宅・消費・納税資金等)	64,227	15.7%	61,740	15.2%	△ 2,487
合 計	408,152	100.0%	405,470	100.0%	△ 2,682

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	2024年9月末				2025年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	293,921	△ 23,661	2,323	25,984	262,268	△ 31,869	1,996	33,866
国債	72,322	△ 10,450	0	10,450	50,718	△ 13,892	—	13,892
地方債	2,180	△ 74	—	74	683	△ 115	—	115
社債	43,248	△ 4,020	123	4,144	42,643	△ 6,455	89	6,545
うち 政府保証債	124	△ 2	—	2	—	—	—	—
うち 公社公団債	201	1	1	—	190	△ 9	—	9
うち 金融債	99	△ 0	—	0	99	△ 0	—	0
うち 事業債	42,822	△ 4,019	121	4,141	42,353	△ 6,445	89	6,535
外国証券	143,928	△ 7,223	836	8,059	138,521	△ 10,593	168	10,762
株式	3,719	920	1,022	102	2,357	782	798	15
うち子会社・関連会社株式	149	—	—	—	158	—	—	—
投資信託	28,458	△ 2,833	319	3,152	27,294	△ 1,602	932	2,534
その他	64	20	20	—	50	7	7	—
満期保有目的の債券	22,807	△ 239	48	288	23,637	△ 904	2	906
国債	—	—	—	—	—	—	—	—
地方債	3,906	△ 13	5	18	3,946	△ 65	—	65
社債	15,460	△ 166	18	184	16,341	△ 687	—	687
外国証券	3,440	△ 59	25	84	3,349	△ 150	2	152
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 評価損益は、9月末日の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。
 ※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	2024年9月末	2025年9月末
業 務 純 益	954	230
経 常 利 益	1,375	1,447
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	1,482	1,651
当 期 純 利 益	923	1,233

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	2024年9月末	項 目	2025年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	45,541	普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	46,693
うち出資金及び資本剰余金の額	1,188	うち出資金及び資本剰余金の額	1,191
うち利益剰余金の額	44,352	うち利益剰余金の額	45,502
うち外部流出予定額(△)	—	うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	1,577	コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	1,108
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	1,577	うち一般貸倒引当金コア資本算入額	1,108
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	47,119	コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	47,802
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	598	コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	789
自己資本の額 (C-D) …… (E)	46,520	自己資本の額 (C-D) …… (E)	47,012
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	423,035	リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	404,197
単体自己資本比率 (E)/(F)	10.99%	単体自己資本比率 (E)/(F)	11.63%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫および信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、(にっしん)は国内基準を採用しています。

自己資本の質の向上を図るため、2014年3月のパーゼルIII適用により、これまでの補完的資本とされていた劣後債や劣後ローン等を外し、出資金、利益剰余金、一般貸倒引当金などの合計から調整項目を控除したものが「コア資本」と定義されました。

2025年3月からパーゼルIIIの最終化に準拠して自己資本比率の算出をしたことから、リスク・アセット等の額の合計額が2024年9月以前より減少しています。

■本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。

■本誌に掲載している数値については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	2024年9月末	経過措置による不算入額	2025年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	45,541		46,693	
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,188		1,191	
うち、利益剰余金の額	44,352		45,502	
うち、外部流出予定額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,577		1,108	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,577		1,108	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	47,119		47,802	
コア資本に係る調整項目(2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	37	—	60	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	37	—	60	—
前払年金費用の額	560	—	729	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	598		789	
自己資本				
自己資本の額(イ) - (ロ) = (ハ)	46,520		47,012	
リスク・アセット等(3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	404,254		386,963	
資産(オン・バランス)項目	355,245		340,018	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	0		0	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	0		0	
オフ・バランス取引等項目	48,193		46,508	
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	815		436	
マーケットリスク相当額の合計額を8%で除して得た額	—		0	
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	18,780		17,233	
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	423,035		404,197	
自己資本比率((ハ)/(ニ))	10.99%		11.63%	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫および信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、(にっしん)は国内基準を採用しています。

2025年3月からパーゼルIIIの最終化に準拠して自己資本比率の算出をしたことから、リスク・アセット等の額の合計額が2024年9月以前より減少しています。

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	2024年3月期	2025年3月期	2024年9月期	2025年9月期(A)	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,936	2,843	2,248	2,026	△ 222
危険債権	21,491	24,146	22,288	23,439	1,151
要管理債権	2,913	2,499	2,761	2,195	△ 566
不良債権合計	26,341	29,488	27,299	27,660	361
正常債権	377,628	376,497	381,698	378,543	△ 3,155
合 計	403,969	405,986	408,997	406,204	△ 2,793
不良債権比率	6.520%	7.263%	6.674%	6.809%	0.135%

保全状況(2025年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保・保証のない部分(C) = (A) - (B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保全額(E) = (B) + (D)	保全率(E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,584	441	441	100.00%	2,026	100.00%
危険債権	16,970	6,468	4,851	75.00%	21,822	93.10%
要管理債権	843	1,351	434	32.12%	1,278	58.22%
不良債権合計	19,399	8,261	5,727	69.33%	25,127	90.84%